



海の子ブラスのコンサートができませんでした。練習を積んできた下級生も残念なのですが、「せめて6年生のために」と下級生からのメッセージボードのプレゼントが贈られました。

# ビデオによる 6年生を送る会

「6年生を送る会」が3月8日(火)に行なわれました。全員が集まっての実施を避け、それでも「どうにかできないか」と考えて行なったのがビデオによる発表でした。教室の大型画面の前で子ども達が自分の発表やほかの学年の発表を見えています。どの教室でも、「じっ」と画面を見つめています。1年生には涙を流している子もいました。子ども達にとっては、出会いや別れに関することは大切な経験なのだと思うので、この「6年生を送る会」を大切にしてきました。「児童会版」卒業式であります。

練習中、うまく行かなくなったときは、「6年生に楽しんでもらえるように」と話し合って進めてきたようです。1年生から5年生の子ども達にとっては、6年生のためにやった会ですが、これまでの



1年生は6年生に教えてもらったことを発表。「ありがとうの花」をプレゼントしました。



2年生は、クイズと音楽。招待状もつくりました。

1年間の成長がはっきりと表れていて、自分達のまとめにもなっています。6年生も、きっと安心して中学校に進んでくれることでしょう。特に5年生は、全体を計画しました。ビデオでの発表とはいえ大変な仕事をやることで、6年生になる準備をしたことになりました。



3年生はソーラン。写真立てのプレゼントもしました。



4年生は6年生への応援メッセージ。バックの虹の飾りも4年生がつけました。

6年生も、学年からの発表を見るにつけ自分達を振り返ることができた



5年生は6年生の日常を劇仕立てで発表。



縦割り班からのプレゼントを5年生が代表して渡します。

のではないかと考えています。6年生は、感謝されようと思ってやってきたことではなく、「みんなのためだから」とか「一番上の学年だから当たり前」と思ってやってきたはずのことが、こうして「ありがとう」という形で返してもらいました。6年生には、「一生懸命なことは下の学年の子に伝わるといことを覚えておいてほしいと思います。そして、「一生懸命やっているときは、なんだか自分も気持ちがよくて、友達も教室全体にもうれしい気持ちややる気が広がっていたということ」を覚えていてほしいと思います。



プレゼントを手にする6年生。実は別に撮影していますが、気持ちはしっかりと伝わっているようです。



6年生は、得意技、大切にしてきたこと、そして修学旅行で覚えてきた「いか踊り」

「ありがとう」の気持ちを伝え合い、種市小学校が引き継がれていきます。

# 一袋のポテトチップス

## 元釜石東中の先生のお話

3. 11集会でのお話

3月9日(水)に3.11集会がありました。今年は、元釜石東中学校の齋藤真先生(現岩手県教育委員会中部教育事務所)のお話をお聞きしました。残念ながらオンラインでの中継でしたが、子ども達は真剣に聞いていました。

齋藤先生は、3.11の東日本大震災津波で実際に、津波から子ども達と一緒に避難したご経験をお持ちです。中学生だけではなく、隣の鶴住居小学校の小学生も連れて避難しました。津波の時、そして、その後の生活がどんなだったのかをお聞きしました。

家族がどうなっているかも分からないなかで、小中600人を超える子ども達が避難するために、中学生が小学生の手をとって、自分も心配なのを我慢して「大丈夫だよ」「がんばろう」「きっとおうちの人も大丈夫だよ」とまるで自分にかけてほしいと思われるようなことばを小学生にかけて避難したのです。

離れた学校の校舎を借りての避難所生活。一緒に暮らすお年よりの肩もみや小学生の話し相手になる中学生。何日も食べない生活が続く中、教室に1つ配られたポテトチップスの袋。真ん中に集まってきて袋を見つめながら、「俺たちはいいです。お年寄りの人たちにあげてください」と話す中学生。「お年寄りの分はあるよ。これはみんなの分だよ。」と告げられて、安心して、袋を開けた中学生。そのあと、ポテトチップスをみんなが見つめるなか、代表の子が、一人一人の前に1まいずつおいていきました。

避難所生活をするなかで、避難している方々を励まし、場所を使わせていただいていることに感謝しようと歌った「地球星歌」という曲の合唱……。震災を直接知らない子ども達ですが、涙を流しながら聞いている子もいました。文面では紹介しきれないほどの貴重なお話でした。子ども達の感想を少しですが紹介します。

津波でなくなった人の分、命を大切にしたいし、しっかりいっぱい祈りたいです。津波から避難するのは大変だったと思うけど、協力したから生きのびたんだと思います。

15人も多い人数でポテトチップス1袋だけしか食べられないのに、「小さい子やお年寄りにあげて。」と言っていた子がすごく優しいなと思いました。だから私は、困っているときに自分より小さい子やお年寄りを優先して優しい心をもちたいと思いました。

どんなに悲しくてもくじけないでがんばろうとする釜石東中学校の人はすごいと思いました。これからも人だけでなく、生き物の命を大切にしたいし、給食を残さず食べたいです。

中学生も怖い思いをしているのに、小さい子のことを考えて手をつないで避難していてすごいと思いました。私もできるボランティアをしていきたいと思いました。

津波が来たときに親がいなくてこわい気持ちと戦いながら逃げたことを想像するだけで怖いと思った。ずっとご飯が食べられなかったり学校で寝泊まりしたりしたということから、いつも私たちが送っている当たり前のご飯はととても幸せなことだと改めて分かった。一日一日を大切に過ごしていきたい。

## 避難訓練

3月4日の昼休み時間に予告なしで避難訓練を行ないました。「落ちてこない・倒れてこない……」場所を自分で見つけたり、その場で身をかがめて「ダンゴムシ」の姿勢をとるなど、自分たちで考えて行動していました。校庭では遊んでいた上級生が下級生を連れて避難する姿も見られました。また、訓練だからこそ、真剣にやっているところもとても大切なことで、受け継いでいきたいことです。

## お願い 最後の1週間になりました

コロナの対策やご協力をいただいて今年度も、週末に修了式や卒業式を迎えるところまでできました。大変ありがとうございます。先週は、**中学校は高校入試や卒業式**があり**兄弟があるおうち**では心配しながらの生活かと思われまます。このあとも小学校だけでなく、**こども園・保育園の卒園式**がある時期ですので、是非、引き続き『**体調に関する連絡**』を密にお願いします。特に本人やご家族に感染の心配がある場合や体調に不安がある場合は、**登校させる前に**、一度連絡をお願いします。